

俳句ポスト入選作品発表!!

俳句ポスト入選作品

須賀川市内24か所と小中学校に設置している俳句ポストに
 投句された俳句を選考しました。(選句会/8月24日) 今回の総
 投句数は3,707句でした。第一回入選作品は次の通りです。
 次回は来年一月に第二回選句会及び年間選句会を開き、特選・
 秀逸・優秀作品を選びます。



一般の部

どの田にも水満々と鯉幟
 少年の防具背にして涼みをり
 幼な子の声よく透る牡丹園
 麦刈るや智恵子の里を北に置き
 宇津峰へ向け特大の門火かな
 日差しごと両手に包み山清水
 教室を覗く向日葵起立礼

入選句7句

城間芙美子
 稲田 スミ
 安齋くみ子
 柏木 芳子
 佐久間博信
 渡辺 盛子
 関根 邦洋



芭蕉記念館

須賀川市

かわら版

第1号

平成28年9月

夏休み子ども俳句教室



今年も恒例の『夏休み子ども俳句教室』を低学年と高学年の部に分けて実施しました。午前には、須賀川牡丹園で俳句の素材を探しに散策しながら俳句を作りました。午後には、作品を色紙に書いて絵をそえたり、俳句あそびをしたりして俳句を身近に感じた教室となりました。

子ども達の観察力や想像力はすばらしく、先生方も驚きの連続でした。「俳句できたかな？」と聞くと「10句作ったよ!」とたくさん見せてくれた子もいました。

須賀川の子ども達はさすがです!!

また『夏休み俳句出前教室』として市内の児童館や児童クラブに先生が出向き、俳句の勉強をしました。

みんないきいきとした面白い俳句がたくさん出来ました。

〈実施児童館・クラブ館〉

駅前児童クラブ館、大東児童クラブ、うつみね児童館、大森小児童クラブ、第二西袋児童クラブ



水たまりアメンボ専用プールだね
 雲海のすそから見える初日の出
 お正月手が交差するかるたとり
 公園の霜をそおとふんでみる
 初夢の中に日が差し目覚めり

(入選された方々には記念品と入選作品集をお送りします。)

阿武隈小6年	有我 美羽
柏城小6年	中山 彩乃
須二中1年	竹内 綺世
須二中1年	柳沼 亜樹
須二中1年	矢内 麻莉亜



せみのはねつよくもったらやぶれそう
かきごおりおとうとのりくめをつぶる
こわいゆめたくさんみたよなつのよる
はかまいいり空をとんでる赤とんぼ
サイダーをのもうとしたりらふんかした
夏の海夜はどんな音するのかな
夏の日と山の日がある夏休み
夏まつりくじをひいたらいつとうしょう
つばめの子たいいくかんにいたんだよ
二時間目すなばのすながあつかった
夏の木が人にやさしくかげつくる
おもちつきもち米だんだんきえていく
ソリスベリ気もちもいっしょにふっとなだ
タすずみ母のとなりでしんこきゆう
青がきをやさしく守る葉の力
ふじの花のれんみたいにさいている
かしわもち葉っぱのにおいがここってる
長沼小山にかこまれ夏の顔
馬おのたき流れる先はどこだろう
夏休みくらくらなるまでボールける
あさがおがとなりのぼうにつるをまく
せみの声ひかりのようにおちていく
教室でメダカの赤ちゃんたん生だ
雪かいで母といっしょに道作る
ぎょう列がりゆうに見えるよはつもうで
晴れた日の元気な空と一年生
春の日を感じて歩く須賀川市

西袋第一小1年	吉田 伍希
阿武隈小1年	川口 彩香
阿武隈小1年	水野 琉希愛
阿武隈小1年	渡邊 未来
須二小2年	安部 孝輔
須二小3年	瀧川 漸
須三小3年	上田 千尋
阿武隈小3年	白石 大智
阿武隈小3年	西村 希結
阿武隈小3年	野崎 千奈津
柏城小3年	山邊 亮和
柏城小3年	加藤 結愛
柏城小3年	松本 咲希
長沼小3年	松本 茉那美
阿武隈小4年	上遠野 蒼
阿武隈小4年	幸田 華
柏城小4年	金澤 美里
柏城小4年	小池 こはる
長沼小4年	山口 京桜
長沼小4年	和智 駿斗
須二小5年	車田 彪流
須二小5年	外川 洸太
須二小5年	西村 怜太朗
柏城小5年	折笠 美桜
柏城小5年	川上 莉子
柏城小5年	柴原 陵太
白方小5年	矢部 美優
三春町立三春小6年	津守 詩

* おもしろい季語

・ みみず 鳴く ・

みみずって鳴くのか？聞いたことないですよね。

これは秋の夜、地中から「ピーツ」と鳴き声が聞こえることがあります。実は、この声の正体は「へおけら」コオロにちかい昆虫でしたが、昔の人はみみずが鳴いていると信じていたのです。

里の子やみみずの唄に笛を吹く 一茶

* 言の葉

9月（長月・ながつき）

日増しに夜が長くなるので「夜長月」。ほかに「色取月」「寝覚月」「紅葉月」「竹酔月」など秋の趣きをあらわす言葉もあります。

【須賀川市芭蕉記念館かわら版第1号】をお届けします。

今から328年前、芭蕉は旅の途中、須賀川で8日間もの長い滞在をしました。

その後も多くの俳人文人が訪れ、豊かな文化が根つきました。俳句にゆかりの深い須賀川の魅力を【かわら版】にして発信して行きたいと思えます。

芭蕉くいず ①

- ① 芭蕉が生まれた時の名まえはななに？
- ② 芭蕉が須賀川に滞在したのは何日ですか？
- ③ 芭蕉は須賀川でだれの家にとまりましたか？
- ④ 芭蕉が須賀川で食べたものはなに？
- ⑤ 芭蕉が旅した時にはいたはきものはなに？

① 草履 ② サンダル ③ 草鞋

①—② ②—② ⑤—③
③—① ④—③

松尾芭蕉・1644-1694
宗房。江戸時代の俳人。伊賀国上野(三重県伊賀市)にうまれる。6人兄弟の次男。旅の中で名句を数多く残している。

相楽等躬・1637-1715
伊左衛門。問屋業を営む豪商で須賀川宿の駅長を勤める。芭蕉より6才年上の面倒見のいい俳句の友。